

1 学校教育目標

夢や志をもち 自ら動き たくましく生活する児童生徒の育成

2 目指す児童生徒像

「人を大切にする力」「考えをもつ力」「表現する力」「チャレンジする力」をもつ児童生徒

3 育成を目指す資質・能力(具体の姿)

資 設 質 定 し た 能 力	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等	
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	協働的に関わる力	地域の一員として関わる力
後期	各教科等に関する個別の知識や技能などを確実に身に付けている。	目的に応じて適切な調べ方を選択して, 集めた情報を批判的に整理・分析して, まとめたり表現したりすることができる。	様々なコミュニケーションを通して, 思いや考えを認め合いながら協働して課題を解決することができる。	呉・音戸の一員として課題の解決に向けて, 地域社会に参画しようとする。
中期		目的に応じて調べ方を工夫し, 収集した情報を目的意識や相手意識をもちながら整理・分析して, まとめたり表現したりすることができる。	コミュニケーションを通して, 互いのよさを生かし, 協働して解決することができる。	呉・音戸の一員として課題の解決に向けて, 自分ができるところを考え, 実践しようとする。
前期		多様な調べ方を知り, 収集した情報を比較・分類したり, 関係付けたりしながら整理・分析することができる。	他者とコミュニケーションをとりながら, 協働して, 課題を解決することができる。	学んだことを自分の生活や地域(音戸)のために生かそうとする。

4 研究主題等

(1)研究主題

主体的に学び合う児童生徒の育成

(2)設定理由(校区の児童生徒の課題分析等)

中学校区の課題は, 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果から明確に示されている。

まず, 国語・算数(数学)ともに全国平均との差が見られるが, 特に算数・数学において大きな課題が浮き彫りとなった。これらの結果から, 本中学校区における喫緊の課題は, 算数・数学の基礎学力の確実な定着と, それを基盤とした思考力・判断力・表現力の育成であると言える。

学力の向上は, 児童生徒が自らの可能性を広げ, 将来の夢や志を実現するための不可欠な土台である。算数・数学の学力向上を図ることは, 論理的に考え, 根拠をもって判断する力を養い, 自己肯定感を高めることに直結する。

また, 「メディアコントロール」に関する取組では, 生活リズムの確立という点では一定の成果が見られた。今後は, この安定した生活基盤を土台として, 学習習慣の確立と学力向上へと結び付けていく必要がある。

以上のことから, 基礎学力の確実な定着を最重点課題とし, 児童生徒が「わかる」「できる」と実感できる授業づくりを通して, 学習意欲を高め, 他者と協働しながら, 主体的に学び合う姿を育成することが必要である。

令和7年度の全国学力・学習状況調査による各校と全国との比較は次のとおりである。

国語	知識・技能	思考・判断・表現
H 小 6年	－3. 7(－5.6)	－10. 0(－7.5)
O 小 6年	＋4. 1(＋1.6)	－2. 4(＋5.4)
9年生(中3)	－3. 7(－1.3)	－3. 6(－2.7)

()内は6年度

算数・数学	知識・技能	思考・判断・表現
H 小 6年	－15. 5(－5.2)	－16. 8(－5.6)
O 小 6年	－5. 2(＋11.3)	－5. 4(＋13.9)
9年生(中3)	－5. 4(－7.3)	－6. 4(－2.1)

昨年度までと同様、国語、算数・数学両方において小学校、中学校ともに全国と比較するとマイナスである。特に算数・数学が非常に大きくポイントを落としており、重点的に取り組む必要がある。令和7年度にも各校でドリルやキュービナ等を活用し基礎学力の定着を図った。「学力向上部会のまとめ」では目標は達成できてはいるものの、教材のさらなる効果的な活用を行っていききたい。

また、令和7年度 呉市教育振興計画の R8 指標との差及び令和7年度県平均との差は次のとおりである。

児童生徒 質問紙調査項目	①自分にはよいところがある と思っている (県平均との差)	②将来の夢や希望を持っている (県平均との差)	③地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う (県平均との差)
H 小 6年	＋3. 0(－0.1)	－2. 0(＋4.1)	－22. 0(－14.3)
O 小 6年	＋0. 8(－2.3)	－9. 1(－3.0)	－9. 0(－1.1)
9年生(中3)	－1. 7(－3.7)	－18. 4(－2.1)	－0. 3(＋4.4)

①「自尊感情」については、ほぼ指標に近づいている。②「将来への展望」は高校進学という将来への節目の一つを控えた9年生が特に落ち込んでいるのが気かりである。③「地域・社会貢献」では両小学校6年生ともに低い数値となっている。学力を身に付け、これからの進学先の選択肢、将来就きたい職業の選択肢を広げられるよう、また自分が所属する地域・社会に目を向け、「自分にできることはないか」と考えさせられるような取組が望まれる。

さらに、本中学校区共通で実施している「メディアコントロール」に関する肯定的評価集計結果は以下のとおりである。(1学期・2学期の平均)

項目	メディアルールを決めて守った	ストップ9・10を守った
H 小	69. 5%	74. 5%
O 小	90. 5%	89. 0%
O 中	38. 9%	76. 1%

※中学校では保護者と一緒にルールを決めた生徒が40. 7%であった。

メディアルールを児童生徒と保護者が一緒に設定したことで、各家庭での意識が高まり、「生活リズムの確立」という検証においては、年度初めに設定した目標を、十分に達成できたと考える。

(3) 令和8年度研究仮説

基礎学力の確実な定着と、協働的な学びを通した思考力・判断力・表現力の育成を図る授業改善を行うことで、児童生徒が「わかる」「できる」と実感し、自信をもって主体的に学び合う姿が育成され则认为。その結果、中学校区全体の学力が向上し、自らの未来を切り拓く力へとつながるであろう。

5 研究内容

＜学力向上部会＞

～基礎学力の確実な定着と「わかる」「できる」「次はこうしたい」を実感できる授業づくり～

※本年度も昨年度同様、基礎学力を教科書の内容(学習指導要領に基づく)と定義づけて取組を行っていく。

① 児童生徒が主体的に学習に参加できる授業づくり

ア 特別支援教育の視点を取り入れた音戸中学校区授業モデルづくりと活用(別途添付)

(全ての児童生徒が「わかる」「できる」)

イ 自分の考えをもたせるための手立ての工夫

ウ 複数の選択肢と自己決定の機会の充実(「次はこうしたい」)

エ 授業参観シート、ICTの効果的な活用による子どもの姿からの研究協議

オ 「わかった」「できた」「次はこうしたい」の記録が残る振り返りと活用

② 基礎学力の確実な定着の取組

ア 児童生徒のつまずきの要因分析にもとづく授業改善

イ 効果的な反復学習(授業冒頭の「確認タイム」の実施)

ウ 中→小, 小→中へ, 効果的乗入れ授業の実施

③ 地域の環境や人材を積極的に活用

ア 生活科・総合的な学習の時間でのカリキュラムマップの活用(学びの履歴)

イ 「人」・「もの」・「こと」のつながりを意識した単元づくり

ウ 目的意識や相手意識を明確にしたパフォーマンス課題の設定(表現の場)

＜生徒指導部会＞～自他を認め合い、自信を育む教育活動の充実(居場所・つながりづくり)～

① 安心して学べる基盤づくり

ア 学習規律の徹底(授業前後の挨拶の3校統一)

イ 生徒指導の4つの視点を生かした安心して学べる環境づくり

(1) 自己存在感の感受

(2) 共感的な人間関係の育成

(3) 自己決定の場の提供

(4) 安全・安心な風土の醸成

ウ 感情コントロールトレーニング

エ 学級活動, 縦割り班活動, 児童会・生徒会活動の充実

オ 異学年交流

・小小, 小中, 保幼小連携

カ 情報モラル教育の充実

・児童生徒とともに, 保護者への啓発・理解促進を図る。

② がんばりを認められる場の設定(実態に応じて各学校で設定する。)

例・あいさつ名人

・親切さんありがとうボックス

・新体力テスト

授業前後の挨拶

①起立(必ず)

②姿勢, これから○時間目の学習を
始めます。「はい」
礼「おねがいします」

③3秒礼(必ず)

1…頭を腰から下げる

2, 3…ゆっくあげて3で気を付け
先生「おねがいします」

④着席

※各校の実態に合わせる。

- ・ノート大賞
- ・そうじ名人
- ・持久走大会
- ・委員会・クラブ活動等, また, 各種表彰

＜生活向上部会＞～自ら健やかな心身をつくる取組の工夫(からだ・こころクラブ)～

① 基本的な生活習慣の定着

- ア 早寝・早起き・朝ごはん
- イ 学校給食を活用した食育の充実
- ウ 保護者を巻き込んだメディアルール確立
 - ・自分の課題にあったメディアルールの自己決定(選択肢を参考)
- エ 児童ストップ9, 生徒ストップ10の徹底
(数字はメディア終了時刻・メディア使用時間を記録する)

★①保護者とメディアルールを決める。

※ペナルティーも決めておく。

②守れたかどうかアンケートでとる。

★ストップ9, 10ができたかどうか

② 体力向上の取組

- ア 陸上記録会などの小中連携
- イ 「くれ・チャレンジマッチ・スタジアム」への取組交流
- ウ 体力テスト結果からの課題把握・実践交流

6 検証について

	検証の視点	方法	検証の指標	現状値(%)	達成目標(%)
1	授業の中で「分かった」「できた」と感じたか。	児童生徒アンケート	肯定的回答をした児童生徒の割合 (4段階評価)	小 91.7 中 91.3	90
2	基礎学力(教科書の内容)は高まったか。 (※)	同一集団の2学期テストの平均点比較	得点率40%以下の児童生徒の割合	小国語 3 小算数 6 中英語 27.3	小学校 4未満 中学校 30未満 (中は5教科平均)
3	自己肯定感が高まったか。	児童生徒アンケート	児童生徒の肯定的評価の割合	小 83.8 中 76.4	小 85 中 80
4	自分のよさを認められていると感じているか。	児童生徒アンケート	児童生徒の肯定的評価の割合	小 79.9 中 71.8	80
5	生活リズムの確立はなされたか。	児童生徒アンケート 保護者アンケート	①自分に合ったメディアルールを保護者と一緒に決め, 守れた児童生徒の割合 ②ストップ9, 10を守れた児童生徒の割合	小 ①80.0 ②81.8 中 ①38.9 ②76.1	現状維持

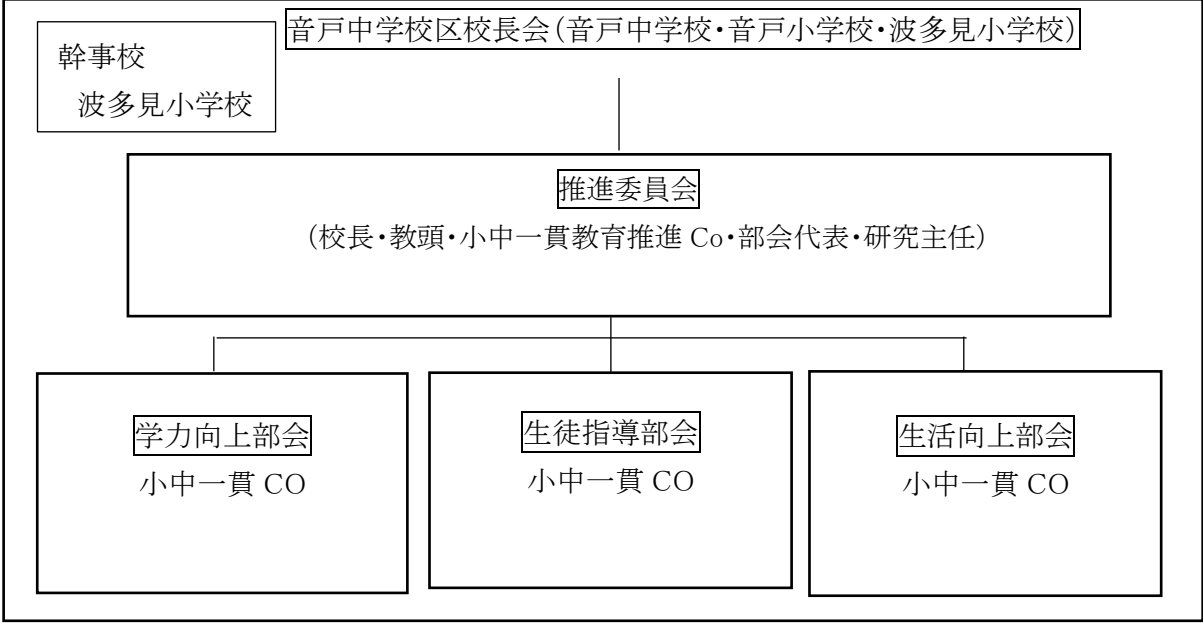
【検証の視点2(※)について】

小学校は2学期に行う業者テスト, 中学校は2学期に行う定期テストの平均点で, 「知識及び技能」, 「思考力・判断力・表現力等」の合計通過率40%未満の児童生徒の割合をみる。

7 推進体制

(1)研究構想図 (別途作成)

(2)推進組織



※ 各部会に各校管理職が2名ずつ入るようにする。

(3)一部担任制実施計画

- ① 異学年交流(小→小, 中→小)
 - ・音戸小と波多見小の同学年交流(随時)(小→小)
- ② 小学校教科担任制等
 - ・波多見小 第3学年, 第4学年, 第5学年, 第6学年(音楽)
第3学年, 第4学年(図工)
第5学年, 第6学年(理科)
第5学年, 第6学年(家庭科)
 - ・音戸小 第1学年, 第2学年 第3学年, 第4学年, 第5学年, 第6学年(音楽)
第3学年, 第4学年, 第5学年, 第6学年(図工)
第3学年, 第4学年, 第5学年, 第6学年(理科)
第5学年, 第6学年(家庭科)
- ③ 乗り入れ授業 (陸上記録会, 教科等効果的な乗入れの実施)

※ 幹事校ならびに各部会長について

年 度	幹 事 校	学 力 向 上 (次 年 幹 事)	生 徒 指 導 (前 年 幹 事)	生 活 向 上 (前 年 幹 事)
令 和 8	波 多 見 小	音 戸 小	中 学 校	中 学 校
令 和 9	音 戸 小	中 学 校	波 多 見 小	波 多 見 小
令 和 10	中 学 校	波 多 見 小	音 戸 小	音 戸 小

8 推進計画

小中合同研修会の計画 R8 3月13日現在

月 日	内 容		
	音戸中	波多見小	音戸小
4月15日(水)	推進委員会①(推進計画・研修計画検討合同研修会の持ち方)		
4月30日(木)	音戸中学校区小中一貫教育①総会(推進計画・研修計画確認)(波多見小)		
5月27日(水)	小中一貫教育Co会①(6月17日について)		
6月3日(水)	推進委員会②		
6月18日(木)	音戸中学校区小中一貫教育②研修会(音戸中) 研究授業(教科)モデル授業 中学校区教員 全員参加☆彡 終了後にCo会②8/28について		
7月3日(金)			校内研修
8月4日(火)	小中一貫教育Co会③(8月28日について)		
8月28日(金)	音戸中学校区小中一貫教育③合同研修会(全国学力調査分析等)(波多見小) スクールカウンセラー小中合同研修 小小連携打合せ		
9月or10月	校内研修		
9月18日(金)			校内研修
9月16日(水)	小中一貫教育 Co 会④(9月30日について)		
9月30日(水)	推進委員会③(学びの変革 合同研修会の持ち方)		
10月7日(水)		校内研修	
10月14日(水)		校内研修	
10月20日(火)	音戸中学校区小中一貫教育④研究授業(音戸小)	学びの変革	全員参加☆彡
10月30日(金)	音戸中学校区小中一貫教育⑤研究授業(波多見小)	学びの変革	全員参加☆彡
11月25日(水)	音戸中学校区小中一貫教育⑥研究授業(音戸中)	学びの変革	任意参加☆彡
12月2日(水)		校内研修	
1月13日(水)	小中一貫教育 Co 会⑤推進計画結果		
1月19日(火)			校内研修
2月8日(月)	推進委員会④(総会の持ち方, R9 推進計画案)		
2月19日(金)	音戸中学校区小中一貫教育⑦ 総会(波多見小)		
3月10日(水)	小中一貫教育Co会⑥		
3月15日(月)	推進委員会⑤(次年度の推進の方向性の確認)		

	検証の視点	方法	検証の指標	現状値(%)	中間値	達成目標(%)
1	授業の中で「分かった」「できた」と感じたか。	児童生徒アンケート	肯定的回答をした児童生徒の割合 (4段階評価)	小 91.7 中 91.3		90
2	基礎学力(教科書の内容)は高まったか。(※)	同一集団の2学期テストの平均点比較	得点率40%以下の児童生徒の割合	小国語 3 小算数 6 中英語 27.3		小学校 4未満 中学校 30未満 (中は5教科平均)
3	自己肯定感が高まったか。	児童生徒アンケート	児童生徒の肯定的評価の割合	小 83.8 中 76.4		小 85 中 80
4	自分のよさを認められていると感じているか。	児童生徒アンケート	児童生徒の肯定的評価の割合	小 79.9 中 71.8		80
5	生活リズムの確立はなされたか。	児童生徒アンケート 保護者アンケート	①自分に合ったメディアルールを保護者と一緒に決め、守れた児童生徒の割合 ②ストップ9, 10を守れた児童生徒の割合	小 ①80.0 ②81.8 中 ①38.9 ②76.1		現状維持